

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1173200559
法人名	株式会社 彩香らんど
事業所名	グループホーム田舎の家
所在地	355-0324 埼玉県比企郡小川町青山201-1 (電話) 0493-71-3133
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年11月27日

【情報提供票より】(平成19年11月10日記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤6人, 非常勤3人, 常勤換算	8.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000円+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500	円	

(4) 利用者の概要(11月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 83.6 歳	最低	82 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野崎医院, いとう歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは平成12年に民家を改造して開設し、平成18年1月に現在地に移転した。敷地のすぐ隣には林があり、車の往来の少ない自然環境の良い立地条件である。建物は木造平屋建てで、内部にも木の温もりがあり、利用者にとって暮らしやすい共用空間になっている。利用者は落ち着いた生活をされている様子が表情から伺えた。男性介護者が3名おり、介護者の男女バランスが良い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>利用者全員への定期健康診断に取り組むという課題については、それぞれのかかりつけ医による診療でその必要性を満たしている。洗面場所周辺の洗剤等の安全な取り扱いと管理については改善されていた。また、近隣との関係作りを積極的に行う取り組みについては、運営推進会議をきっかけに、ホームだよりの町内回覧や行事参加、防災訓練への近隣住民の参加に繋がり、改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は各職員が記入し、それを管理者を含め全職員で検討、確認しながら行った。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議へは各家族が毎回順番で参加している。その他、町福祉課職員、区長、民生委員が参加しており、会議の結果「ホームだよりの」地区内住民への回覧が実現し、町主催の福祉祭りへの利用者の参加に繋がっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ホームの通信である「青山だよりの」を家族に送付している。個々の家族には、家族面会時や電話、手紙により連絡をしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者が町の福祉まつりに参加し、ハーモニカやオカリナの演奏を披露した。また、ホームだよりを地域住民に回覧しており、ホームだよりの防災訓練の記事を見た近隣住民が、訓練に参加するなど、地域住民との交流に繋がっている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症のお年寄りが地域の中でその人の持っている能力を生かし、共同で生活する場」という事業所独自の理念を管理者を始めとした職員全員で考え、作成した。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で作成した理念を、日々のサービスの中で具現化するため、玄関、リビング、事務所に掲示して、職員間で共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会に利用者が招かれて、地域住民との交流を楽しんでいる。運営推進会議の参加メンバーである区長がホームの通信である「青山だより」を地区内に回覧してくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は各職員が記入し、それを管理者を含め職員全員で確認した。前回外部評価の改善事項に関しては、全職員に改善意義の浸透はできていない。	○	前回外部評価の改善事項の内容を整理し、改善の意義について管理者を始め全職員で共有して具体的な改善に取り組むことを期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、区長、民生委員、家族代表(出席は毎回順番制)、町役場福祉課職員等が参加して2ヶ月に1回実施している。会議の開催の結果、区長の発案でホームだよりが地区で回覧され、地区住民の理解が進み、行事への参加に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の呼びかけで利用者が福祉まつりに参加しているなど、町とは日頃から連携がとれている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの通信である「青山だより」を家族に送っている。利用者の生活の様子については「青山だより」に載せている。また、面会時には職員が対応して利用者の日々の生活の様子を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が結成され、また運営推進会議には家族が順番で出席している。個別に電話や手紙、苦情ノート等で情報交換している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を防ぐため日頃から管理者が職員の話しを聴くよう努力している。なお、職員の異動の際には、異動の理由等を利用者にきちんと説明し、異動による混乱を防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は行われている。また、その後の研修として、グループホーム協議会の研修に参加した人が、研修内容を職員に伝達している。しかし職員個々に必要な研修を計画的に実施するには至っていない。	○	職員一人ひとりの経験やレベルに応じ、計画的に研修を実施されることを期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が他施設の見学をするなど、同業者同士が相互に交流している。同業者と交流する機会があった職員は、その内容を他の職員に伝達してサービスの向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人、家族がグループホームを見学したり、ホーム職員が家庭訪問して利用者の生活歴や日頃の生活の様子を聞いている。また、利用者の生活歴や日頃の生活の様子をふまえた介護計画を作成し、利用者が徐々にホームの生活に馴染めるようなケアを実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の希望を取り入れ、職員と利用者が一緒に配膳や畑仕事、ハーモニカの演奏を行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者やその家族、担当職員からの情報をもとにケースカンファレンスを行い、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。本人の希望に沿って、散歩や入浴の時間を確保している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前の家庭訪問で家族や本人の希望、生活歴を把握し、ケアカンファレンスを行い介護計画を立て、毎日の生活に生かしている。また、日々の介護の関わりの中で利用者の思いや希望を聞き、計画に反映させている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しを行うと共に、利用者の状態変化等、介護計画見直しの必要が生じた時は随時ケアカンファレンスを実施し、プランの見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	家族の希望や状況に応じ、利 用者の受診等を柔軟に支援し ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	本人のかかりつけ医、ホーム の連携医、歯科医など、本人 や家族希望により医療機関を 選択することができ、受診の 支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等な らびにかかりつけ医等と繰り 返し話し合い、全員で方針を 共有している	会議、ケアカンファレンス等 で検討している。必要に応じ て臨時のカンファレンスを行 う。個別の利用者やその家族 の希望に対する検討、重度化 や終末期に向けた体制作り には至っていない。		本人、家族、かかりつけ医 や看護師等、そして事業所側 の考え方や意向がずれたまま 重度化の時期を迎えること のないよう、できるだけ早期 に話し合いの機会を作り、関 係者全体の方針の統一を図 っていくことを期待する。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや 対応、記録等の個人情報の取 り扱いをしていない	訪問調査時には、職員全員 が利用者に対して、尊厳を持 った大人として対応していた。 職員間で利用者のプライバシー に関する勉強会や研修をして いる。個人情報の取り扱いにつ いても気をつけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとり のペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希 望にそって支援している	毎朝利用者ひとり一人の希 望を聞き、その希望が実現 できるよう生活していただい ている。調査日も利用者一人 の散歩にも職員が付き添い、 支援していた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が会話をしながら楽しく行っている。訪問調査日は、男性利用者が多い事もあるのか、食事の後片付けを手伝う利用者はいなかった。		男性利用者が多いということであるが、後片付けだけではなく、買い物や調理など利用者が力を発揮できる場面づくりを期待する。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日風呂を沸かしており、利用者が入りたい時間に入浴できる。必要により職員が介助する。衛生上、利用者には1日おきに入浴していただくようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	配膳のうまい人には配膳をお願いしたり、ハーモニカの吹ける人は老人会で演奏してもらうなど、個々の持っている力を生かした支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望にあわせて散歩をしている。ホームの周囲は自然に恵まれ、外出しやすい環境である。また、道路までの高低差をスロープでカバーし、利用者のバリアフリーにも配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	比較的近場に電車の踏切があり、やむを得ない状況時には施錠する場合がある。カンファレンス等ではどうしたら常時施錠しないケアを実施できるか検討している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回実施している。「青山だより」に訓練の記事を載せた所、近所の住民が参加してくれた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は24時間記録している。食事の献立は職員が作成しているが、栄養バランスも取れている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い居間は明るく、部屋やテーブルは木目調で温かみがある。行事のスナップ写真が廊下にたくさん貼ってあった。利用者はとても良い表情である。窓からは紅葉も見ることが出来る。また、見当識障害のある利用者に配慮して場所が大きく明示されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒などは利用者が自宅から持ち込み、居室に置いている。居室前の表札は、職員により個別に作られている。		